

社長メッセージ

P. 1

ESGの視点を一層重視
した経営の深化を通じて、
持続可能な社会に向けて
貢献します。



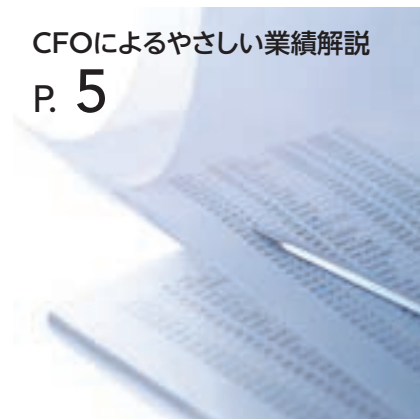
東京ガスグループピックス

P. 3



CFOによるやさしい業績解説

P. 5



東京ガス

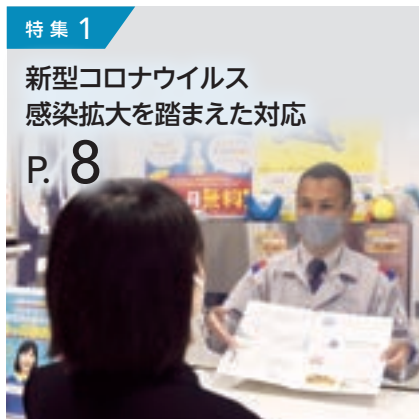
通信



特集 1

新型コロナウイルス
感染拡大を踏まえた対応

P. 8



特集 2

人材戦略
～「Compass2030」の実現に向けて～

P. 9



ESGの視点を一層重視した経営の深化を通じて、
持続可能な社会に向けて貢献します。

代表取締役社長
内田 高史



新型コロナウイルスは私たちの暮らしや社会に大きな衝撃を与えています。

株主の皆さまにおかれましては、日頃より当社グループの事業運営に対しご理解ご支援を賜り誠にありがとうございます。

当社グループは、本年3月、新型コロナウイルスの感染拡大が進む中で、「2020-2022年度中期経営計画」を発表し、以降、今日までの間、ライフラインを提供する企業としてエネルギーの安定供給・安全確保に努めながら、中期経営計画を着実に実行してきました。同時に、刻々と変化する状況を見定めながら、コロナ禍による当社事業への影響を分析し、どう対応すべきか、何を継続し、何を変革すべきかを検討してきました。

持続可能な社会、脱炭素化への意識の高まりは、大きなパラダイムシフトです。

まず、当社グループを取り巻く状況について、経営ビジョン「Compass2030」、「2020-2022中期経営計画」の策定時に想定した環境変化(4つのD：脱炭素化、デジタル化、お客さまの価値観の変化・多様化、エネルギー自由化)は、コロナ禍を受けて、大きな方向性は変わらないものの、変化のスピードが加速しています。

特に、世界的な脱炭素化の傾向は、グリーンリカバリー(経済復興と環境対策を同時に行う取り組み)の動きによってさらに加速し、日本政府も2050年のCO₂排出実質ゼロを目標に掲げました。また、経済基盤の変化等も背景とした、持続可能な社会への意識の高まりなど、一層注目すべき変化も見られています。我が国の経済・社会は大きく変わろうとしており、これはまさにパラダイムシフト(考え方の枠組みや価値観の劇的な変化)と言えます。

当社グループは、これまでもLNGを中心に扱うエネルギー事業者として、環境・社会に広く貢献してきました。しかし、このパラダイムシフトにより、当社グループには、さらなる貢献や役割が求められていると同時に、大きく成長するチャンスでもあると捉えています。

私たちはESGの視点を一層重視し、自らを大きく変革していきます。

このような環境下において、当社グループが実現すべきことは、「脱炭素化・社会課題解決への一層の貢献」、「不確実な環境でも成長を実現するグループ経営」であると考えます。引き続きエネルギーの安定供給・安全確保を中心に据えながら、ESGの視点を一層重視した経営を深化します。

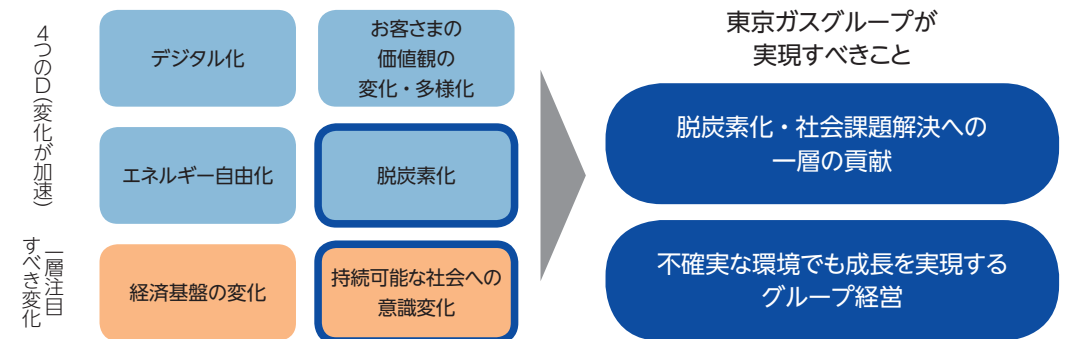
そこで、①【E】「CO₂ネット・ゼロの加速」、②【S】「価値共創による社会課題の解決」、③【G】「グループフォーメーション改革」の3つに取り組みます。「CO₂ネット・ゼロの加速」のため、国内外における再生可能エネルギー電源の導入拡大、水素製造やCO₂マネジメントに関する技術開発・実用化などに取り組み、パラダイムシフトをリードします。また、当社がこれまでも力を入れてきた食や暮らしの提案を通じた豊かな生活文化づくりや共生社会への取り組み

みに加えて、お客さま、地域社会、ビジネスパートナーなどとの「価値共創による社会課題の解決」を図っていきます。「グループフォーメーション改革」においては、来年6月の定時株主総会でご承認をいただくことを前提とした指名委員会等設置会社への移行や、ホールディングス型グループ体制への移行とそれに合わせた権限の移譲と成果管理・責任の強化も進めていきます。

このように、社会やステークホルダーの皆さまのご期待にお応えすることが、当社グループの成長につながると確信しています。財務体質の健全性を保ちつつ、原資を優先的にCO₂ネット・ゼロ関連分野に振り向け、当社グループの成長の成果を株主さまに還元していくために、株主還元政策の見直しを検討します。

東京ガスグループは不確実な未来においても、皆さまとともに成長します。

当社グループは、持続可能な社会への貢献を通じて企業価値・株主価値をさらに高め、株主の皆さまのご期待にお応えできるよう引き続き努めていきます。当社グループの取り組みに対するご理解を賜りますとともに、今後とも変わらぬご支援をお願い申し上げます。



「msb Tamachi(ムスブ田町)」街区全体と田町スマエネプロジェクトの完成

当社グループがまちづくりを推進してきた田町駅東口北地区において、タワーNの竣工により、オフィスや商業施設、ホテルなどからなる複合拠点、「msb Tamachi(ムスブ田町)」街区全体が完成しました。

また、スマートエネルギーネットワークの完成により、2つのエネルギーセンター間を熱融通配管で連携し、SENEMS*によるエネルギー供給の最適コントロールを通じた省エネ・省CO₂への貢献、非常時のエネルギー融通によるレジリエンスの向上を実現しました。今後も、さらなる街の賑わい創出に貢献し、本街区の活性化、付加価値向上に努めていきます。

* SENEMS: スマートエネルギーネットワーク・エネルギーマネジメントシステムの略称



msb Tamachi 田町ステーションタワーN

7月15日

米国ルイジアナ州における新たなガス田権益の取得とキャッスルトン・リソーシズ社の子会社化

当社は、出資するキャッスルトン・リソーシズ社(米国テキサス州のガス開発・生産事業会社)がルイジアナ州で新たなガス田権益を取得するにあたり、同社に追加出資し子会社化しました。当社が、米国シェールガスの事業会社を子会社化することは初めてとなります。

当社グループは、このように、事業会社に出資して経営に参画することで事業会社を成長させる投資手法も活用し、海外事業のさらなる拡大・収益性の向上を目指します。



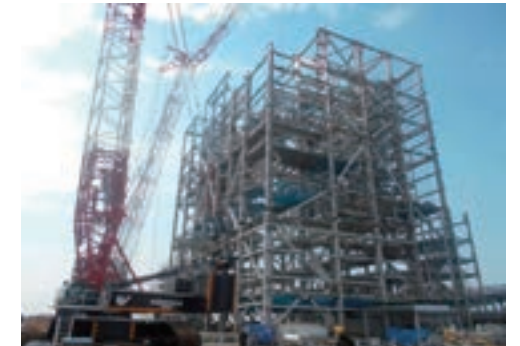
8月15日

富山県高岡市および千葉県市原市における木質バイオマス発電事業を取得

当社100%子会社のプロミネットパワー株式会社は、Equis(エクイス)グループが保有・運営する、伏木万葉埠頭バイオマス発電合同会社および市原八幡埠頭バイオマス発電合同会社の2社を取得しました。これにより、当社グループの再生可能エネルギー電源取扱量は、約12.6万kW増加し、130万kW*を超えました。

当社グループは、経営ビジョン「Compass2030」で、CO₂ネット・ゼロへの挑戦を掲げており、その実現に向け2030年における国内および海外での再生可能エネルギー電源取扱量500万kWの獲得を目指し、引き続き取り組んでいきます。

* 国内約25.6万kW・海外約108万kW、開発中案件含む(最大出力:発電端出力単位)



伏木万葉埠頭バイオマス発電所(建設中)

9月11日

2020年

4月

5月

6月

7月

8月

9月

「デジタルトランスフォーメーション銘柄2020」に選定

当社は、経済産業省および東京証券取引所が主催する「デジタルトランスフォーメーション銘柄2020」に選定されました。

当社グループは、経営ビジョン「Compass2030」の実現に向け、デジタル(AIやIoT)技術の活用を掲げており、今後もデジタルトランスフォーメーションの継続実施を通じ、さらなる業務改革を進めるとともにお客さまの豊かな暮らしづくりに貢献していきます。

8月25日



電力契約件数が250万件を突破!

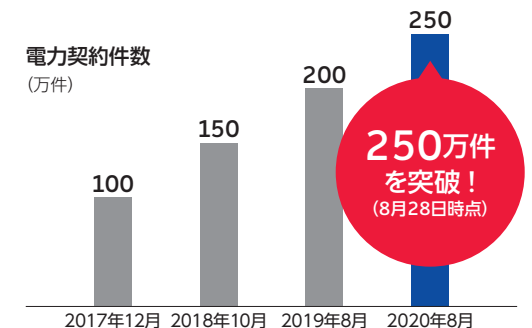
当社が提供している「ずっとも電気」の契約件数*が、250万件を突破しました。

当社グループは、「2020-2022年度中期経営計画」において、電力契約件数380万件の目標を掲げています。その達成に向けて、これからも、お客さまの暮らしやビジネスの価値向上に貢献するとともに、より多くのお客さまに「ガスも、電気も、暮らしのサービスも、東京ガスにまかせて安心」と感じていただけるサービスを創出していきます。

* 当社の電気を供給中のお客さま件数

9月3日

電力契約件数(万件)



CFOによる やさしい業績解説

Q. 第2四半期の決算のポイントを教えてください。

A. 第2四半期の業績は、前期に比べ「減収増益(純利益ベース)」となりました。

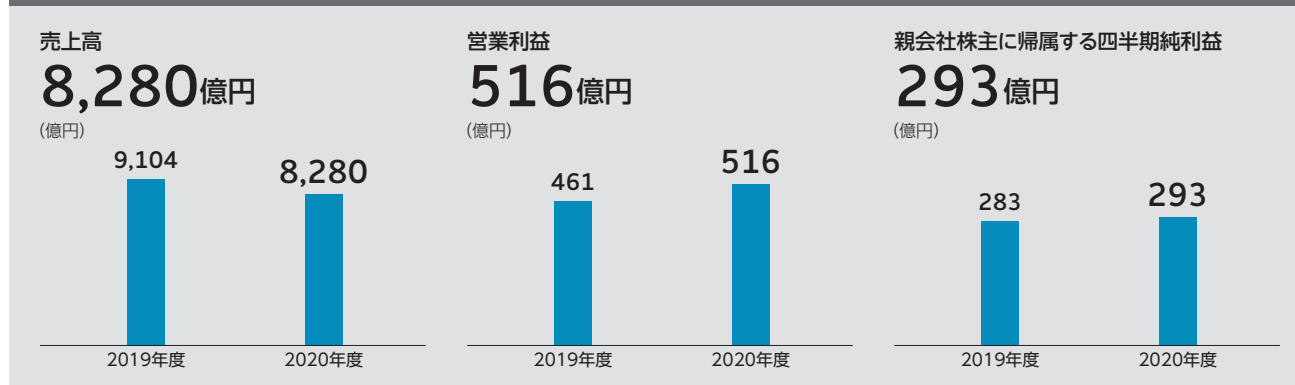
売上高は、新型コロナウイルス感染拡大の影響等により都市ガス販売量が減少したことなどによって、▲824億円の8,280億円となりましたが、営業利益は+55億円の516億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は+10億円の293億円となりました。

事業別でみると、原油価格下落の影響等を受けた海外事業や、ホテルの稼働率低下の影響等を受けた不動産事業において収支が悪化したものの、お客さま件数の増加などによって電力販売量が増加した電力事業が全体利益を大きく押し上げました。



専務執行役員 CFO
早川 光毅

2020年度 第2四半期決算概要



セグメント別売上高・セグメント利益

	売上高(億円)				セグメント利益(営業利益+持分法損益)(億円)			
	2020年度 第2四半期	2019年度 第2四半期	前期比		2020年度 第2四半期	2019年度 第2四半期	前期比	
			増減	%			増減	%
ガス	5,440	6,396	▲956	▲14.9	478	471	7	1.6
電力	1,955	1,646	309	18.8	131	49	82	165.9
海外	191	207	▲16	▲7.4	17	70	▲53	▲75.5
エネルギー関連	1,541	1,623	▲82	▲5.1	57	62	▲5	▲9.1
不動産	229	221	8	3.7	42	55	▲13	▲23.1
その他	524	564	▲40	▲7.1	15	25	▲10	▲39.1
調整額	▲1,602	▲1,554	▲48	-	▲228	▲239	11	-
セグメント合計額	8,280	9,104	▲824	▲9.1	513	494	19	3.9

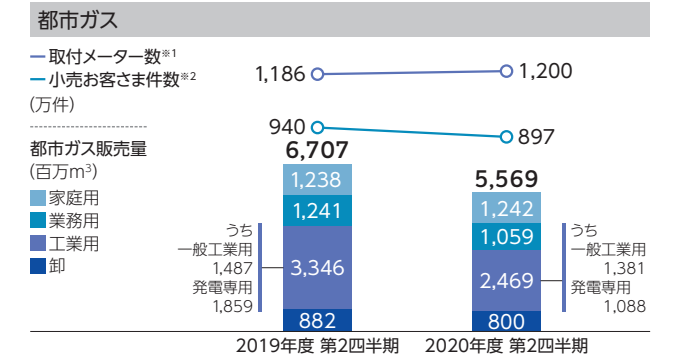
(注) 1. セグメント別の売上高には事業間の内部取引を含んでおります。
 2. 「ガス」には、都市ガス、液化石油ガス、産業ガス、LNG販売、トレーディングを含みます。「エネルギー関連」には、エンジニアリングソリューション、ガス器具、ガス工事、建設、クレジット等を含みます。「その他」には、情報処理サービス、船舶等を含みます。
 3. セグメント利益の調整額の主なものは、各セグメントに配分していない全社費用です。

Q. 新型コロナウイルスの感染拡大によって、都市ガスや電力の販売量にどのような影響がありましたか。

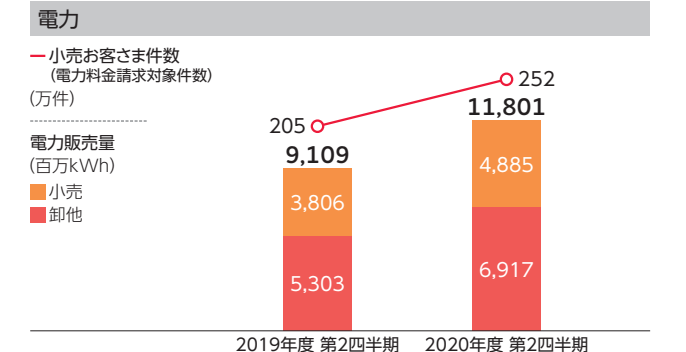
A. 新型コロナウイルスの影響により、都市ガス販売量は、4~9月累計で前期に比べ、全体で▲2割程度となりました。家庭用は、一部巣ごもり需要が見られ、ほぼ前年並み。業務用は、依然として飲食店やホテルなどで需要が減少しているものの、第2四半期においては学校の再開による需要回復等があり、▲1割程度まで回復しています。工業用においても、工場等の需要が前期比で微減にまで回復するとともに、第1四半期に大きく落ち込んだ発電用需要も経済活動の再開や夏場の高気温に伴い徐々に回復し、9月単月でほぼ前年並みとなりました。以上の通り、都市ガス販売量は、9月にかけて徐々に回復してきていると受け止めています。

一方、電力販売量は、4~9月の累計で前期に比べ、全体で3割程度の増加となりました。小売は、お客さま件数の増加に加え、巣ごもり需要等の影響、卸については、電力卸取引所への販売量の増加等の影響によって、いずれも上期を通じて増加となりました。

販売量・件数



*1 休止中・閉検中・他社小売分を含む導管事業者としてのメーター取付数
 *2 ガス小売事業者としてのガス料金請求対象件数



**Q. 自由化で電力・ガスの契約先を自由に
選べる状況にありますが、電力の獲得と
ガスの切り替えの状況を教えてください。**

A. 9月末時点で、電力の料金請求対象件数は約252万件、ガスの切り替え件数は▲約171万件です。

この第2四半期までは新型コロナウイルス感染拡大の影響もあり、市場・お客さまの動きは前期に比べ鎮静化していましたが、当社、競合他社ともに段階的に営業活動を戻しつつある状況にあります。

今後、さらなる電力のお客さま件数の拡大に向けて、Webでの契約獲得の強化などに取り組んでいきます。

Q. 今年度の見通しについて教えてください。

A. 今年度は、前期に比べ「減収増益(純利益ベース)」を見通しています。

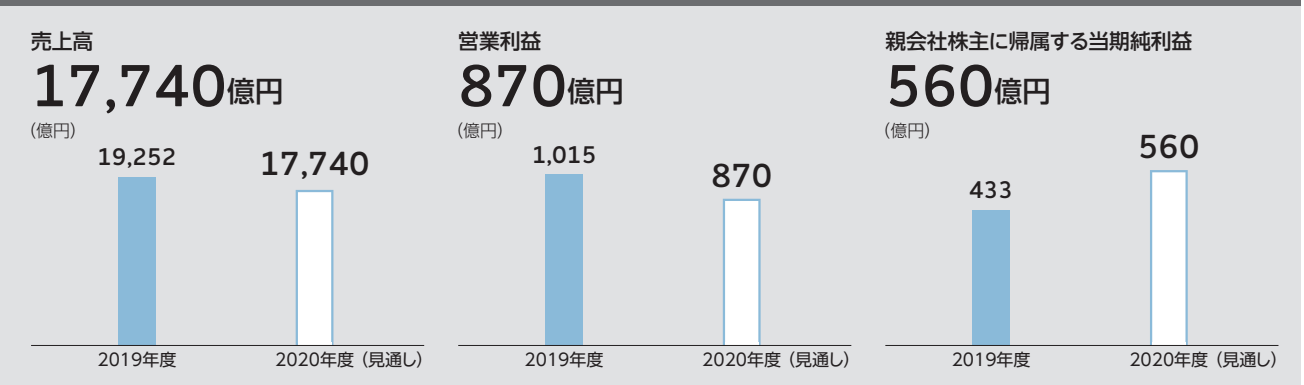
足元では依然として新型コロナウイルスの新規感染者が高い水準で推移するなど、今後の動向は不透明ではあるも

の、ガスの需要は引き続き年度末に向けて徐々に回復していくと想定しています。

前期比では、新型コロナウイルスの影響等によって、通期の都市ガス販売量は減少することを見込んでいます。一方、営業費用も、原料購入価格に影響する原油価格の下落により減少することを見込んでいます。電力事業については、お客さま件数の拡大等に伴う電力販売量の増加により、利益面でのプラスの影響を見込んでいます。また、ガス事業を中心とした100億円程度のコスト改革を着実に進めていきます。

これらを踏まえ、売上高は▲1,512億円の1兆7,740億円、営業利益は▲145億円の870億円、親会社株主に帰属する当期純利益は、前年度からの特別損益の改善を織り込んだ結果、+127億円の560億円を見通しています。

2020年度 通期見通し



**「3つの宣言」を實踐し、
お客さまの安心・安全を守り続けます。**

当社グループは、新型コロナウイルス感染症の拡大を踏まえ、
「エネルギー事業者としての公益的使命」
「企業市民としての社会的責任」
「社会と共に持続的な発展」の3つを宣言。
今回、地域のお客さまに機器メンテナンスサービスを提供する現場での取り組みを頂きました。

東京ガスライフバル北多摩
快適生活提案部 メンテグループ
チームリーダー
めざき けんた
目崎 健太



**Q. 「3つの宣言」を踏まえ、コロナ禍で
どのようなことを実践していますか。**

感染症の拡大による不安の中で暮らすお客さまに対し、決してエネルギーの供給を止めることなく、安心・安全を守り続けることが私たちの使命です。「3つの宣言」のもと、それをしっかり自覚した上で従来通りの業務を維持・継続しています。

お客さまの不安を取り除くためには、万全の感染防止対策が必須となります。訪問時には、事前の検温と体調確認、マスクの着用、スリッパの持参、作業前の手指の消毒を徹底。もちろん事業所内においても、密閉・密集・密接の回避など、常に安全性を確保した勤務体制を取っています。

ガス機器のメンテナンスは、お客さまからのご予約を受けて実施しますが、在宅勤務をされているお客さまや休校中のお子さまがいるご家庭など、ステイホームの状況下でさまざまな事情が生じるため、訪問時間などご予約の急な変更について、柔軟かつスムーズな対応を心掛けています。

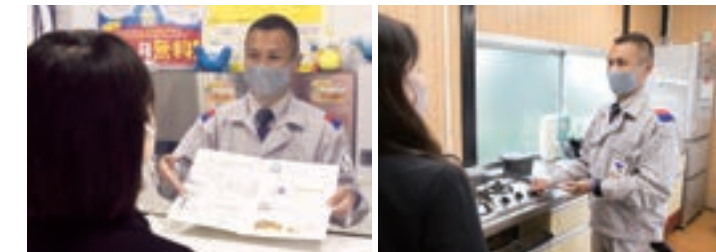
**Q. お客さまとの関係には
どのような変化が生まれていますか。**

メンテナンス作業の完了後、お客さまにアンケートへの記入をお願いし、作業に対するご意見やご要望を伺っています。コロナ禍以降、アンケートに寄せられるお客さまの声には、特に私た

ちの感染予防対策の徹底に対して、感謝の言葉を多くいただくようになりました。また、ステイホームによってご家庭の電力消費量が増加しているお客さまからご相談を受け、ガスと電気のセットによって割安となる東京ガスのサービスプランをご紹介し、ご採用いただいたケースもあります。

このようにコロナ禍をきっかけに、お客さまとのコミュニケーションが従来よりも濃いものとなり、エッセンシャルワーカーとしての存在意義があらためて認められ、生活提案についても深掘りさせていただけるような変化が生まれています。在宅時間が長くなったことで、お客さまも今まで気付かなかつた暮らしの問題点に気づき、エネルギーや水まわりなどの改善を求める意識が高まってきていると感じます。

これからも安心・安全の担い手として、お客さまの信頼にお応えしながら、よりよい暮らしの実現に貢献したいと思います。



人材戦略

当社グループは、経営ビジョン「Compass2030」で掲げる「3つの約束」の実現などを通じて、「生き活きと働き、自ら成長し続け、持てる力を最大限発揮して高い実績を上げ続ける人材の創出」を目指します。そのために、一人ひとりの知識・能力・経験が最大限に活かされるよう、働き方改革やダイバーシティの推進に取り組みます。

1

社会に大きなインパクトを与える仕事を生み出します。

私たちは挑戦と失敗から学ぶことを賞賛します。

2

多様性がぶつかり合い、切磋琢磨する場をつくります。

多様な経験と思いが集う東京ガスグループをつくります。

3つの約束

3

一人ひとりの自己実現にこだわります。

私たちは、一人ひとりの可能性を信じ、活躍をサポートします。

人材開発・育成やダイバーシティの推進、働き方改革等の具体的な取り組みについては、サステナビリティレポート2020 (<https://tokyo-gas.disclosure.site/ja/>)をご参照ください。

クローズアップ

それぞれの強みを発揮しながら、チームで生き活きと活躍している社員をご紹介します

IoTに関わる業務経験と知識を活かしサービスの拡充に貢献していきます。

2017年6月に入社し、「くらし見守りサービス」の運営統括と新たなサービスの開発、家庭用分野のサービスを支えるシステム基盤づくり、各種サービスの運用業務の共通化による生産性向上など、多岐に渡る業務に携わっています。前職は大手自動車

暮らしサービス事業推進部
サービス事業推進グループ
見守りサービス推進チーム
むとう ふみひと
武藤 史



メーカーのコンネクテッドカー（つながる車）部門で、お客さまとの接点となるスマートフォンアプリ、Webサイトや車の接続先システムの

開発などを行っていました。

今の仕事と前職は、IoTを活用したサービスという共通点がありますが、「くらし見守りサービス」のユーザーの拡がりや事業規模に強いインパクトを受けたことから、そこで自分の経験と知識を活かしたいと考え、転職を決めました。

この職場の特色は、サービスの企画から開発、運営に至るまでチーム全体が連携し、一体となって取り組んでいる点にあると思います。私もチームに加わり、事業としてサービスの全体像を捉えることができるようになりました。そうした自分の成長とともに、仕事に大きなやりがいを感じています。

今後は、「くらし見守りサービス」に限らず、家庭用分野のサービス拡充のための土台を築き、お客さま件数の拡大に貢献したいと思っています。

プロフェッショナルな職場で自分を磨き活躍の場を拡げていきます。

現在、法務室の国際チームの一員として、海外投資案件や原料調達契約に関わる英文契約書のチェック、法律知識を活かしたアドバイスなどを行っています。入社したのは今年の6月で、前職は大手流通グループの国際法務チームに約4年間勤めてい



総務部 法務室
主任
いしくるともこ
石黒 智子

ました。前職での仕事も海外事業のサポートで、東南アジアを中心とする子会社のガバナンスや、商取引契約に関するアドバイス

など、幅広く担当してきました。

企業のキープロジェクトとなるM&A案件など、大きな取引の中で専門性を発揮する業務に携わりたいと考えていたところに、当社グループの経営ビジョン「Compass2030」における海外への積極展開についての新聞記事を読み、思い切って採用に応募しました。また転職に際し、仕事に役立てようとニューヨークで司法試験を受け、弁護士資格を取得しました。

法務室のメンバーは皆、勉強熱心で深い知識を備え、高い能力と朗らかな人柄を持ち合わせており、日々刺激を受けます。前職では経営層のアシストなどを通じて、会社全体を鳥瞰的に捉えることができました。そうした経験を活かし、法務室と他部署が連携しやすくなるような、社内の架け橋の役割も果たしたいと思っています。

上司からのコメント

IoTサービスに関する最先端の技術知識と開発経験を持つ人材を求め、武藤さんを採用しました。前職で培われた高度な専門性や仕事の進め方を発揮してプロジェクトを主導するなど、期待以上に活躍してくれており、安心して仕事を任せられます。またチーム内では、現場経験が豊富なベテラン世代とデジタルが得意な若手世代の間で、武藤さんが仲立ちとなり、コミュニケーションを円滑にしてくれますし、自動車業界で体感された世の中のスピード感を伝え、新たな風をチーム内に吹き込む存在となっています。

暮らしサービス事業推進部
サービス事業推進グループ
見守りサービス
推進チームリーダー
さかもと けんたろう
坂元 賢太郎



上司からのコメント

石黒さんの採用に際しては、応募資格に即戦力としての専門知識と経験を設定しました。入社後は、採用面接時にイメージしたとおり、その期待に十分応えてもらっています。時間の管理などコスト意識が非常に高く、経験と資格を活かした効率的でクオリティの高い石黒さんの仕事ぶりは、チームに大きな刺激を与えています。また社会的で明るい性格も相俟って、自職場だけでなく他職場にも新たな気風を持ち込んでくれています。今後は当社



総務部 法務室
チームリーダー
はやし やすひろ
林 康弘

特有の知識や業務の回し方などを身に付けて独り立ちし、社内外問わず活躍の場を拡げてほしいです。

電力契約件数
250万件突破
★★★★

電気の切り替えは、
多くの人に選ばれている、
東京ガスの**電気!**



「ガス」と「電気」の検針票があれば
スマホでカンタン申し込み!



株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会 毎年6月
基準日 定時株主総会・期末配当: 毎年3月31日
中間配当: 毎年9月30日

**株主名簿管理人および
特別口座管理機関** 三井住友信託銀行株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目4番1号

郵便物送付先 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
〒168-0063
東京都杉並区和泉二丁目8番4号

株式に関する各種手続きについて

株式に関する各種手続きは、お取引の証券会社でのお取扱いとなります。なお、保有株式が特別口座で管理されている場合は、特別口座管理機関の三井住友信託銀行株式会社でのお取扱いとなります。

TEL 0120-782-031 (受付時間: 平日9:00-17:00)



www.tokyo-gas.co.jp